

メイン会場(小ホール：450名)	サブ会場(4F、第3・4集会室：201名)	第1集会室(4F：90名)	第2集会室(4F：111名)	601会議室(6F：78名)	602会議室(6F：90名)	603会議室(6F：90名)	604会議室(6F：78名)
------------------	-----------------------	---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

受付開始：9：00

開会式 09:55-
大会長講演 10:00-10:50 家族療法－温故知新－ 大会長 (中野真也) 司会 (岩田尚大)

会長講演 11:00-12:00 日本家族療法学会に期待すること 会長 (村上雅彦) 司会 (中野真也)

座談セッション 13:30-15:00 家族療法の専門性と 家族療法家の責任性 登壇者 (東豊・村上雅彦) 司会 (岩田尚大)	講演 13:30-15:00 家族療法から学んだこと： 家族システム理論、 一般システム理論、DBT、トラウマ インフォームドアプローチ、 サンクチュアリモデルなどにおけ るシステムの広がり深まり 講師 (遊佐安一郎) コメンテーター/リフレクター (梁田秀磨・福井里江・田中究)	ミニワークショップ 13:00-15:00 ジェノグラム入門：その情報の 豊かさに触れてみましょう 講師 (飯垣将)
---	--	--

書籍販売・休憩所
11：00 - 18：15

自主シンポジウム 13:00-15:00 公立中学校と児童精神科医師との 15年間の協働関係 (小笹祥子)
--

自主シンポジウム 13:00～15:00 スーパービジョンのあり方・話 し方を考えるーあるスーパーヴィ ジョン・グループの模索のプロセ ス (平栗富美子)
--

一般演題 13:30-15:00 ○認知科学の視点で考えるPTMF、 インフォームドコンセント、 危害防止原理 (石橋健一) ○親の別居・離婚を経験した 子どものリスク・スクリーニング ー Kids' DOORSの試行実践 (小田切紀子) ○「リフレクティング・チームの 手法を導入した事例検討の意義と その可能性に関する検討ー事例提 供者と参加者の質的分析からー」 (須江泰子) 座長：市橋香代
--

事例検討 13:00-14:00 回復期リハビリテーション病院 リエゾンにおける退院支援の一例 (森未緒・堀込俊郎) 座長：渡辺俊之
事例検討 14:10-15:10 読み書きの困難を持つ児童に、 チーム学校が成し得たことは何か (迎美保・佐藤牧子) 座長：赤津玲子

大会シンポジウム 15:30-18:00 精神分析と家族療法 シンポジスト (中村伸一・渡辺俊之・ 上別府圭子) 司会 (中野真也) 指定討論 (児島達美)
--

講演 15:30-17:30 家族療法における 基礎としての複数面接 講師 (吉川悟) 司会 (大平厚)
--

ミニワークショップ 15:30-17:30 思春期・青年期家族への アタッチメント理論に基づく支援 講師 (稲垣隼子)

一般演題 15:30～17:00 ○家庭と学校の協働関係の 再構築についての一考察 (山元彩美・吉川悟) ○家庭内の複数の子どもが問題を 抱える中で機能的な援助システム の形成を志した一事例 (相楽麻紀・大平厚) ○スクールカウンセラーによる教 員への働きかけに関する一考察 システム論の視点から (久保見篤) 座長：阪幸江
--

自主シンポジウム 15:30-17:30 精神科診断名を共有することに どれだけの意味があるのか： トラウマインフォームドケア・ PTMF・オープンダイアログ・ 心理教育などの視点からの問い (伊藤順一郎)

一般演題 15:30-17:00 ○希死念慮を抱く生徒の 親子関係調整を行った一事例 (西山達二) ○回復期の思春期神経性やせ症 への介入 (村松京香・吉川悟) ○他機関への拒否が改善した事例- 患者の抱える困り感の扱いの有効 性 (寺田日向子・吉川悟) 座長：阿部幸弘
--

スーパービジョン・セッション 15:30-17:00 すれちがう母と子への 個別アプローチ (高橋候補) スーパーバイザー：田中究
事例検討 17:10-18:10 本人が来談困難な状況の発達相談 における家族支援事例 (志田望) 座長：鈴木美砂子

交流会：国際会議室 18:30-